

MARITIME INTERNATIONAL 2017 第2号 平成29年12月22日

〈東京都立大島海洋国際高等学校 TEL:04992-4-0385 FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス : kaikoku@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス : <http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html>

海国祭

9月22日のカッターレース大会に引き続き、23日、24日に海国祭を開催しました。1日目は天候不順でしたが2日目は天気も良く盛況でした。今年度も多くの地域の方々や本校保護者に御来校頂き、2日間で延べ来場者数は996名でした。HR部門の最優秀賞は2年B組がプールで行ったシンクロナイズドスイミングの「シンクロ」、優秀賞は3年B組の演劇「裏文化祭！！～迫真のアイドルフェスティバル！！～」でした。有志団体部門の最優秀賞は和楽器とギターによるデュエット「ことなっつ」、優秀賞はブレイクダンスを踊る「ブレイクダンサーズ」でした。

また、図書委員会の古本市の売上金 82,950 円を今年は大島町立第一中学校の図書購入費と「日赤平成29年7月大雨災害義援金」に、ボランティア部の販売品売上げ 57,012 円を「九州北部豪雨朝倉市義援金」に寄付しました。御来校頂いた皆様には感謝申し上げます。

カッターレース大会



3 B (生活指導部海国祭担当:理科 新井 壮)



シンクロ



3 A



郷土芸能部



吹奏楽部



留学生について

9月よりアメリカからの留学生、Celeste Tibbittsさんが本校1年A組で勉強しています。出身はアメリカ合衆国カリフォルニア州モントレー。年齢は16歳で、(教育制度が違うので)アメリカでは高校2年生です。1月終わりまで大島海洋国際高校に通います。

元町のホストファミリー宅から毎朝バスで通い、授業に参加したり、日本語の勉強をしたり、友だちとお話したりしながら学校生活を送っています。「ホストファミリー、学校の先生そして友だちがとても親切にしてくれる」と、周りに助けられながら慣れない地で頑張っています。新しい言語を学ぶ事に少し苦手意識があり日本語の習得に苦労しているようですが、4カ月目になり驚くほど会話が聞き取れるようになっていきます。「もっとクラスメイトと会話がしたい」と言っていて自分の日本語力を伸ばしたいと努力しています。また、日本の?大島の?寒さにも驚いているようです。出身地の近いミゲル先生に何うと、彼女の街は比較的暖かいところのようです。体調を崩すこともありましたが今は復調し、だんだんと慣れてきたと思います。学校に通うのもあと1カ月ほどですが、少しでも良い思い出を持って帰ってもらえるよう、ご協力よろしくお願いたします。(留学生担当：英語科 吉岡 穰)



ROVによる海洋調査



10月7日と8日に、希望生徒と東京大学の先生(9名)や学生の方(20名)と波浮港湾内の水質調査と水中探査機器を利用した海中観察及びドローンによる海上観察を行いました。東京大学の海洋アライアンスと本校は協定を結んでいるために、海洋に関する調査を共同で行ったり、特別講義をしていただいています。本校からは5名が参加し、小型の実習船「みはら」と「おどりこ」に乗船して大学院生と共にCTD(Conductivity Temperature Depth: 電気伝導度水温水深計)を降ろして塩分や水温測定をしたり、採水器による採水によって湾内の塩分や水温分布を探る調査を行いました。約70年前の記録によると、波浮港にはいくつかの湧水場所があったそうでその確認を目的として行いました。

また、水中探査ロボットのROV(Remotely Operated Vehicle 水中探査ロボット)を使って海底や海洋生物、湧水の様子をリアルタイムで見ようと試みました。生徒は、学生と協力して真剣に調査に取り組んでいました。観測後、本校の生物地学教室で学生の方がデータをまとめたり、分析して本校生徒を含めて結果報告会を行いました。

結果として、湧水場所の特定はできませんでしたが、いくつかの場所で塩分が薄い箇所があり、湧水

が存在する可能性を確認しました。ROVによる海中観測は、事故によりロボットのガラス部分が観測途中でひび割れ、海水浸水で開始早々に中止となってしまいました。結果報告後に質問時間が設けられ、参加した生徒からは大学院生も驚くような鋭い率直な意見や質問も出て、先生方も驚いていました。次回日程は未定ですが、今後もこのような調査は継続します。興味のある生徒は是非参加してください。
(進路指導部 高大連携担当：海洋科 倉澤 聡)

進路講演会報告

11月20日に1年生対象の進路講演会を開催しました。講師は、前身の大島南高校卒業生で、鹿児島大学へ進学して「養殖学」を勉強した渡辺樹里さんです。彼女は、大学時にはベトナムへ留学し、大学卒業後は青年海外協力隊員としてフィリピンで地域に根差した養殖業の普及活動に貢献した方です。「クロスロード」という映画の登場人物のモデルになった人らしいです。講義は、高校時代・大学時代のエピソードから、海外での地元の方々とのコミュニケーションの取り方まで、体験した人しかわからない事まで分かりやすく話をしてくれました。その渡辺さんの講演から、いくつか印象に残った言葉を最後に紹介します。



「見ると聞くでは大間違い！」←高校時代のインターンシップ体験から
「健全な国際協力、誰もが国際社会の住人」←私たちの生活はあらゆる地域の人々と繋がりがあ
「貧困でなく素朴な暮らし」←かつての日本の田舎で見られた互いに助け合う生活、お金が生活の全てではない！
(進路指導部：海洋科 倉澤 聡)

カッター部 年間活動報告

4月：1年生が17名入部。過去最多です。12月現在、全員が部活動を続けています。腰痛や怪我で漕げない部員もいますが、苦しい思いをしている仲間を思いやり、一人一人を大切にできる部活にしていきたいと思います。5月：横浜港カッターレース大会、女子の部準優勝、一般の部3位。頑張っている女子クルーのためにも女子艇が出せたのは嬉しかったです。7月：全国大会、準優勝。これで準優勝が3年連続です。非常に悔しかったのですが、連覇した京都海洋高校は非常に尊敬できる素晴らしいチームなので致し方ありません。それよりも、公私ともにいろいろな面で問題が多かった3年生が、最後は立派にチームを率い、堂々としたレースで実力を出し切ってくれたことに感動させられました。毎年、顧問をやっていてよかったと思う瞬間です。10月：東海地区カッター競技会、優勝。新チームのデビュー戦でした。他の強豪校が出なかったこともあり、Aクルーは圧勝でした。1年生中心のBクルーも他校の上級生の艇に迫るタイムを出しており、選手層の厚さを示せた大会でした。11月：東日本カッター競技会、予選失格。東海大会優勝で勢いに乗り、大学生の大会に乗り込みました。大会前日の公開練習では優勝候補の防衛大学よりも早い漕ぎを見せ、期待が膨らみました。しかし、結果は回頭ブイ接触のため、まさかの失格！ 仮に回頭ブイに接触しなかったとしても、前日に比べてまったく艇速が出ておらず、いずれにせよ勝てなかったレースでした。原因はいくつかあるのですが、やはり負けたレースの方が学ぶものが多いようで、ここからチームの雰囲気の良い方向に変わったと感じています。

以上が平成29年のカッター部でした。平成30年の夏こそは深紅の優勝旗を大島に持ち帰ってくれるものと期待しています。
(カッター部顧問：数学科 西山 大介)

潜水部活動報告

12月3日、千葉県国際総合水泳場で開催された第24回全日本スポーツダイビング室内選手権大会に参加しました。この大会は、スポーツとしてのスクーバダイビングの健全な普及と振興、さらに潜水活動における安全思想の普及を図ることを目的に開催されています。また、ほとんどの1年生にとっては、初めての大会参加となりました。

11月以降は本校のプール終了に伴い、プールでの練習がなかなかできない状況ではありましたが、部員全員が自己ベスト更新を目指し頑張りました。特に2年生は、乗船実習があったため、練習らしい練習ができない状況での大会参加となりましたが健闘しました。

結果として、好成績を残せた人、残念ながら本来の実力を出し切れなかった人など、様々ではありましたがこの大会で得たことを今後の練習・大会に活かして、一人ひとりがさらに成長してもらいたいと思います。

最後に、大会会場まで足を運んでいただきました保護者の皆様、御支援および御声援ありがとうございました。
(潜水部顧問：海洋科 今西 弘憲)



【大会結果】

《種目》

50M フリッパー(男子)

高校生の部 第2位、
総合の部 第4位

2B 木原 奎吾 (26" 00)

50M フリッパー(女子)

高校生の部 第3位、
総合の部 第5位

1A 今井 聖奈

(予選 30" 91、決勝 31"40)

総合の部第4位

1B 水橋 桃子

(予選 31"59、決勝 31" 06)

100M フリッパー(男子)

高校生の部 第4位 (58"01)

【年齢別新記録】 → 決勝へ勝ち進むも、第7位 (1'03"86)

3B 柳田 有斗

400M フリッパー(女子)

高校生の部 第1位、
総合の部 第2位

2B 隅谷 祐宇 (5'26"82)